

# 欧州グリーン ディールと 金融機関の役割

関西大学商学部

高屋 定美

---

# 欧州グリーンディールとは

- グリーンディールの最大の特徴は「環境（気候変動）政策とエネルギー政策を統合すること（カップリング）によって、経済成長と資源利用を切り離すこと（デカップリング）を可能にする新たな制度構築の試み
- 既にEUはグリーンディールに沿って欧州気候法、EUタクソノミー、国境炭素調整メカニズムなどの諸政策を具体化

# グリーンディールでの金融機関の役割

- 欧州グリーンディールの政策：金融と資本の流れをグリーン投資に向け、座礁資産を回避するための長期的なシグナルが必要である
- EUタクソミーを用いて金融システム全体をサステナブル・ファイナンスに転換させようという狙い
- 金融市場での従来の資金配分では、化石燃料を多く用いる産業を温存させることになりかねず、資金供給の面からグリーンへの移行を促そうというもの
- 投融資の条件にグリーンの要素を入れ、資金需要のある借り手に対してグリーン化を促すとともに、直接的に資金供給を行う金融機関に対してもグリーンな投融資を行うための規制をかけていこうという狙い

# 欧州銀行監督機構(EBA) のサステナブル・ファイナンス戦略

- EUでの銀行(預金受入機関)に対する監督は、汎EUの監督機構である欧州銀行監督機構
- グリーンディールの一環として、EBAはESGリスクをプルーデンス政策である自己資本規制に反映させようと企図
- バーゼル規制の「第3の柱」に関連して、ESGリスクに関する開示基準を発表
- それにより、気候変動がバランスシートをいかに悪化させるか、そのリスクをいかに軽減しているか、EUタクソノミーに沿った活動へのエクスポージャーなどの問題を銀行が報告するために必要な技術的な詳細を提示

# 欧州銀行監督機構(EBA) のサステナブル・ファイナンス戦略

- 2019年12月に公表したサステナブル・ファイナンス行動計画
- 第1の柱に、環境、社会的な目標に実質的に関連する資産や業務に関連するエクスポージャーが、ブルーデンス規制上の特別な扱いが正当といえるのかを評価すること、
- 第2の柱の監督検証・評価プロセスにおいてESGリスクが含まれる可能性を評価すること
- 第3の柱では、ディスクロージャー要件を適用するための細則(technical standards)にESGリスクを盛り込むこと

# EBAのロードマップ

- 第1段階を透明性と情報開示
- 第2段階として、ESG要素とリスクをリスク管理・監督フレームワークに統合
- 第3段階として、エクスポージャーの慎重な取り扱い
- 第4段階として、銀行向けのストレステスト実行
- 第5段階として、基準とラベルの設定
- 第6段階として、グリーンウォッシングの対策
- 第7段階として、監督報告にESGリスクに関する情報を導入
- 第8段階として、財務上重要な（material）ESGリスクとサステナブル・ファイナンスの進展をモニタリング





# BNPパリバ (フランス)の事例

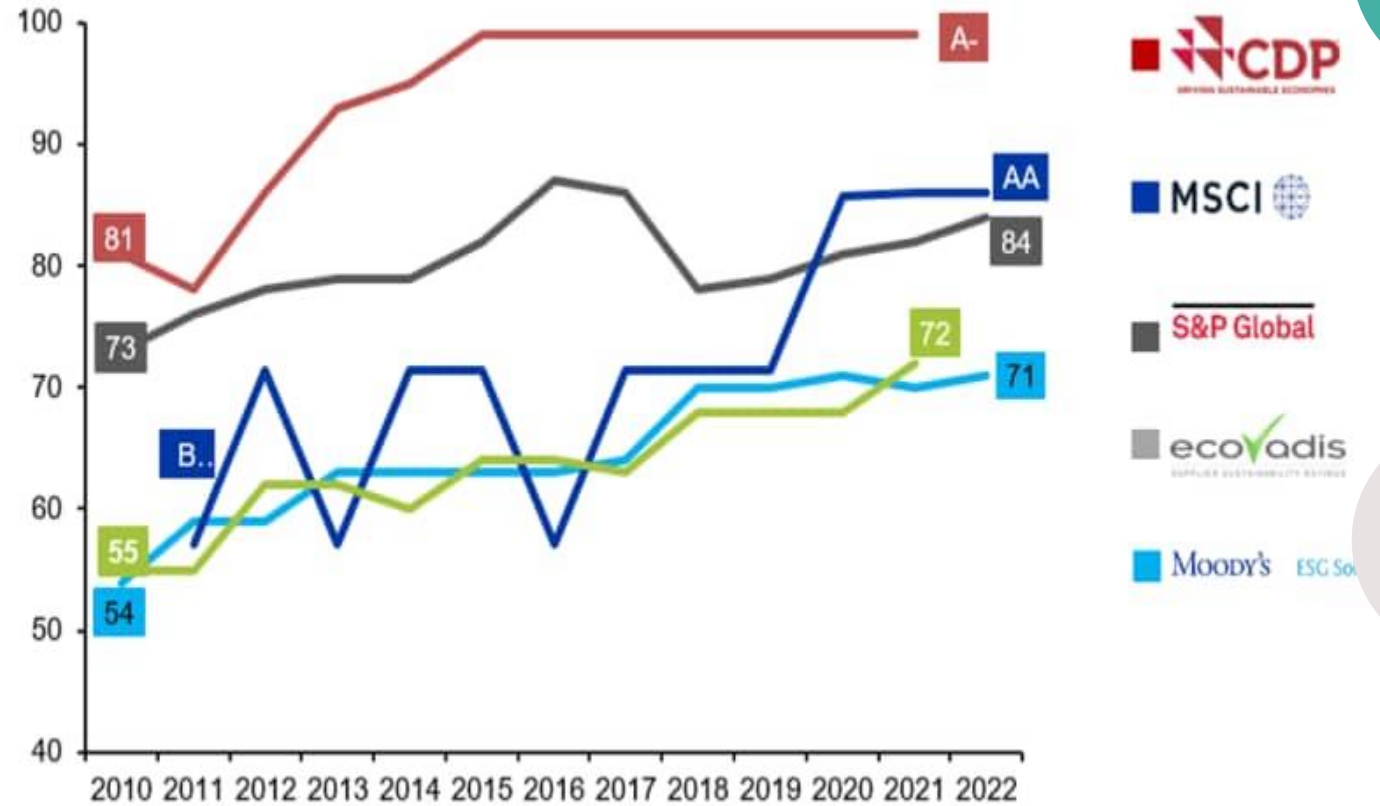
# BNPパリバ(フランス)の事例

- BNPパリバは脱炭素社会への移行(transition)へのコミットメントとして、以下の分野での役割を定義
  - 1) エネルギー転換と気候変動対策
  - 2) 自然資本と生物多様性
  - 3) サーキュラーエコノミー
  - 4) 責任ある貯蓄と投資
  - 5) サステナブル・ファイナンスにおける専門家
  - 6) 資金調達と投資方針



# BNPパリバの ESGパフォーマンスの推移

- 出所) BNPパリバ  
(2022) "Sustainable Report  
2022



# バンコBPM (イタリア)



# バンク BPM グループ

- 2017年1月に BancoPopolare と Banca Popolare diMilanoが合併して設立されたイタリア国内 3位の銀行グループ
  - 2017年1月に BancoPopolare と Banca Popolare diMilanoが合併して設立されたイタリア国内 3位の銀行グループ
-

# バンク BPM グループ

- 総資産のうち、タクソノミーでのグリーン適格の資産の割合(エクスポージャー)が、21.26%、不適格なエクスポージャーが5.27
  - 開示対象外の企業への融資割合が高く、欧州の地域金融機関の典型例
  - 開示対象外の企業へのエクスポージャーについては、EBAが求める銀行勘定でのタクソノミー整合性レシオ (BTAR) として開示する必要性が今後、生じてくるため、中小企業へのグリーン融資を高めていくことが想定
  - 貸付と助成金を通じてイタリア政府が行う**国家復興・レジリエンス計画 (NRRP)**への支援を行っている。
-

# わが国に対する示唆

1. 気候変動対策への取り組みを本業の投融資に明示的に組み込むこと
2. EUでは多くの銀行に広がりを持たせるには、EBAのように監督当局がロードマップを策定し、それに沿って各行がESG戦略を順序だって策定していくことが重要とされる。
3. 欧州では中小の銀行であってもESGを重視した投融資を行いつつあり、わが国の金融機関でも期待したい。そのため、ESG投融資を専門とする人材育成が肝要
4. 大手金融機関は脱炭素移行を進めやすい。そのため、この分野で大手金融機関と中小金融機関とが人材交流などの業務提携を行うなどの取り組みも必要

# 参考文献

- European Banking Authority (2022) *The Road Map on Sustainable Finance*, December.
  - European Commission (2019) *The European Green Deal*, COM (2019)640 Final.
  - 高屋定美 (2023a) 「グリーンディールと欧州中央銀行の役割」 蓮見 雄・高屋定美編著『欧州グリーンディールとEU経済の復興』所収、文真堂、177-196。
  - 高屋定美 (2023b) 「EUタクソノミーが与えるEU域内の金融・経済活動への影響」 蓮見雄・高屋定美編著『欧州グリーンディールとEU経済の復興』所収、文真堂、225-260。
  - 蓮見 雄(2023)「欧州グリーンディールの射程」 蓮見 雄・高屋定美編著『欧州グリーンディールとEU経済の復興』所収、文真堂、1-55。
-